

地域金融機関の地域密着型金融の取組み等に対する利用者等の評価に関するアンケート調査結果等の概要（九州財務局管内分）

九州財務局では、「中小・地域金融機関向けの総合的な監督指針」に基づき、地域金融機関における地域密着型金融の取組みに関する利用者等の評価を把握するための調査を年1回実施し、爾後の監督対応に活用することとしています。

このたび、平成27年5月から6月にかけて、九州財務局管内の利用者等を対象として、アンケート調査を実施し、その結果を取りまとめましたので、公表いたします。

- 調査期間 平成27年5月～6月
- 調査範囲 九州財務局管内(熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県)
- 調査対象 中小企業経営者、商工会議所・商工会の経営相談員、大学教授、マスコミ関係者 等
- 調査先数 87先
- その他 前年度と同一設問については調査結果の推移を比較しています。

【お問い合わせ先】
財務省九州財務局理財部金融調整官
TEL:096-353-6351
(ex:3081・3084)
FAX:096-359-2821

地域密着型金融の取組み等に対する利用者等の評価に関するアンケート調査結果等の概要

1. 地域金融機関の取組みに対する御意見等 1
2. 地域金融機関の取組みに対する評価
 - (1) 地域密着型金融の取組み姿勢（全体評価） 3
 - (2) 顧客企業に対するコンサルティング機能の発揮 3
 - (3) 地方創生や地域経済活性化に向けた取組みへの参画 4
 - (4) 地域や利用者に対する積極的な情報発信 5
3. 当局の施策に対する評価
 - (1) 自由意見による評価 5
 - (2) 選択評価 5

1. 地域金融機関の取組みに対する御意見等

本調査においては、地域金融機関における地域密着型金融の取組みに関し、評価できる点と、不十分な点の両面から御意見をいただきました。主な意見は以下のとおりです。（○：評価できる点、▲：不十分な点）

(1) 顧客企業に対するコンサルティング機能の発揮

<日常的な関係強化の姿勢>

- 金融機関に毎期の設備投資計画を提示し、関係する補助金制度については種々な提案をいただき、金額的にも大きいため助かっている。
- 信用金庫に加えて、今年から信用組合の若手職員が地元の青年部に加入した。このような取組みを通して、金融機関と行政、中小企業者が連携を取りやすくなるのではないかと期待している。
- 運転資金等の資金の申込みに関して、金融機関の担当者からは、柔軟かつスピード感を持って対応してもらっており、良好な信頼関係を築けている。
- ▲ 地域のイベント等には、声をかければ来てくれるが、主体的に乗り出してくるといった姿勢はない。
- ▲ コンサルティング機能を発揮しようとする姿勢は感じられるが、支店長、担当者の訪問頻度が月1回程度であり、当社の経営課題等により突っ込んだ話ができる状況にはない。

<創業・新事業に向けた取組み>

- 地元金融機関は、経営革新等支援機関業務として、企業がものづくり補助金や創業支援補助金を受けるために必要な事業計画の策定等に積極的に取り組んでいる。
- ▲ 中小企業の創業支援などの場合は、保証協会の保証付き融資が多い傾向がみられる。保証料の負担を軽減するためにも、プロパー融資を積極的に推進してほしい。

<ビジネスマッチング>

- 単独の金融機関だけではなく、複数の金融機関が連携したビジネスマッチングもあり、積極的に対応いただいている。
- ▲ 銀行から商談会等の誘いを受けることもあるが、当社とは規模の差があり、取引に結びつきづらい先ばかりであるため、企業の規模やスタイルに合ったきめの細かいマッチングをしてほしい。
- ▲ ビジネスマッチングについては、フェアを開催するだけでなく、顧客企業に対して、もっと具体的な提案（マッチング先の紹介など）をしてほしい。

<海外進出支援>

- ▲ 自行が得意な場合は海外進出等の提案をしてくれるが、金融機関ごとに提案力に差がある印象。

<目利き能力>

- 外部専門家の活用が進みつつあることに伴い、金融機関職員のスキルも向上しつつあるという印象。
- 中小企業診断士の資格を有する職員をキーマンに、個々の事業者の特長やタイミングを見極めたうえで、必要に応じて積極的に融資対応をしている。
- ▲ 中小企業診断士の資格を有する地域金融機関職員も多くなったが、財務諸表に拠らず自信を持って企業を評価できる人材はまだ育っていないと感じる。

1. 地域金融機関の取組みに対する御意見等

<経営改善・事業再生に向けた取組み>

- 取引金融機関の担当者に、経営会議や新規事業のプレゼンなどの社内会議に出席してもらい、財務面について、アドバイスを受けている。
- 条件変更等については、金融円滑化法の期限到来後もきちんと徹底されていると感じる。
- ▲ リスケになって初めて経営改善支援が始まる。本来は、リスケになる前から支援が始まるべき。
- ▲ 地域密着型金融に取り組もうとする気持ちがあり、提案等の努力はしているが、内容が伴わずに結果につながっていない印象。金融機関にマーケティング能力があるわけではなく、経営塾も開催しているが、その先につながっていない。

<事業承継に向けた取組み>

- 融資をしてもらい社屋移転してから、後継者(息子)の意識も目に見えて変わってきており、後継者問題が改善した。
- ▲ 事業承継の取組みに関しては、まだまだの印象である。そのまま廃業する事業者が多く、金融機関側にしても、事業承継に関するノウハウが少ない上、経営者にそれを切り出すタイミングが難しいのではないと思われる。
- ▲ 各金融機関におかれては、事業承継を考えている経営者や企業の情報を、自行内で困り込むのではなく、前広に商工会議所等の外部機関と共有・連携してもらいたい。

<外部専門家・外部機関等との連携>

- 商工会議所と相互に連携・協力して中小企業等の新規創業・事業引継ぎ・販路開拓等の支援を行い、地域経済の活性化を図るため、包括連携協定を締結している。
- ▲ 専門家派遣について、保証協会は積極的に行っている一方、金融機関は、自行の審査に通すために専門家を使ったらどうか、というような提案の仕方が多い。本当に経営改善や問題解決を行うために外部専門家を使うといった姿勢はないように感じる。

(2) 地方創生や地域経済活性化に向けた取組みの参画

- 商工会議所との連携や大学への寄付講義、地域での奨学金制度設立など、金融機関が持っているノウハウや人材を地域貢献に生かしている点は評価できる。
- 地公体発行のプレミアム商品券の交換を金融機関が行っているということも、地域貢献に取り組もうとする姿勢の表れとして評価している。

(3) 地域や利用者に対する積極的な情報発信

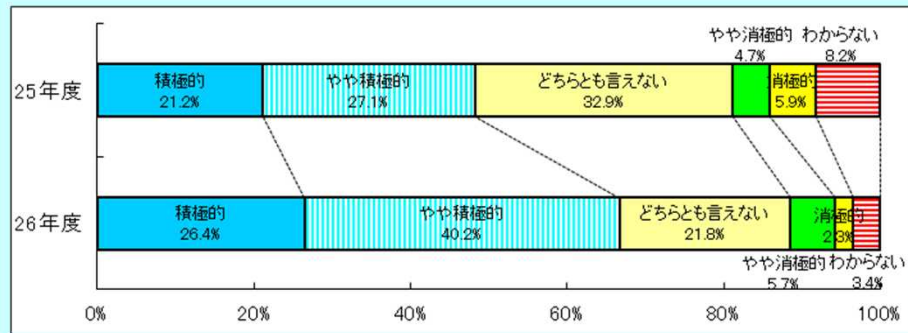
- 金融機関からは取引先(販売先や仕入先)の紹介や補助金事業に関する情報提供がある。
- ▲ 地域密着型金融の取組状況について、金融機関のHPを閲覧しようとしても、掲載箇所が判りづらく、情報も不足している。
- ▲ 企業側としては、金融機関が持つ様々な情報を提供してほしいが、金融機関の担当者は、訪問時に融資に係る話・提案しかしない。

(4) 都市圏から地方への人材還流における人材ニーズや課題

- ・ 経営支援の観点から求める人材としては、販路拡大やマーケティングの分野で実務経験のある人である。特に、都市部において販路などのネットワークを持っている方を求めたい。
- ・ 地方に派遣された都市圏の優秀な人材が、数年後に都市圏に戻る際には、次の人材が都市圏から新たに派遣されるなど、「切れ目のない人材還流」を行うことが重要だと思う。
- ・ 還流する人材にも生活があるので、人材を受け入れる側の企業には、相応の所得を提供できる力が必要。また、生活環境が大きく変わると考えると、家族(子供の教育環境含む)の支援が必要。これらを解決できなければ、ますます逆に動くのではないか。

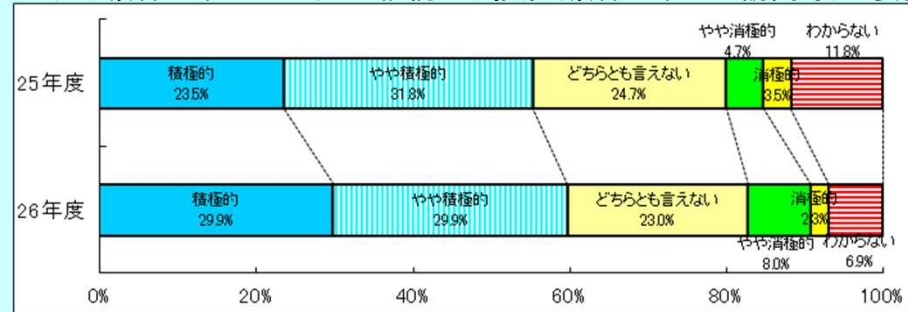
2. 地域金融機関の取組みに対する評価

(1) 地域密着型金融の取組み姿勢(全体評価)

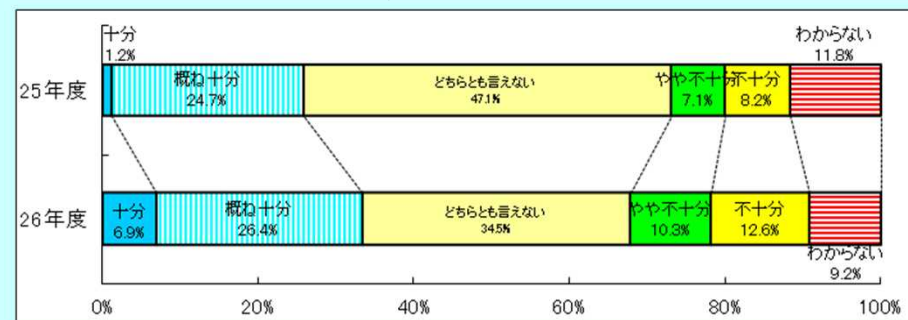


(2) 顧客企業に対するコンサルティング機能の発揮

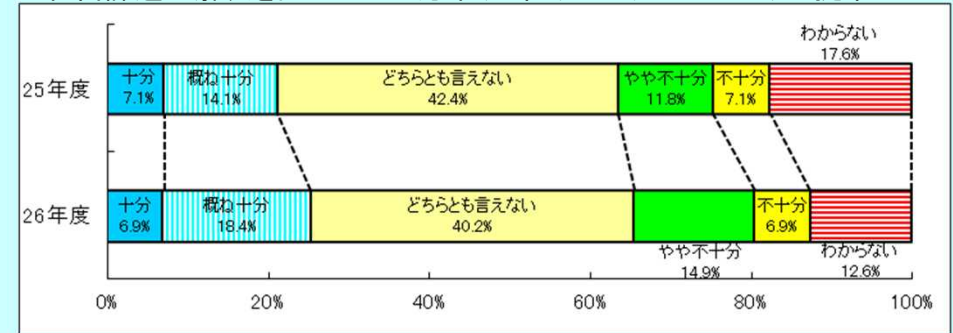
(i) 顧客企業との日常的・継続的な接触(顧客企業への訪問等)の姿勢



(ii) 目利き能力を発揮し、顧客企業の事業価値を評価する能力

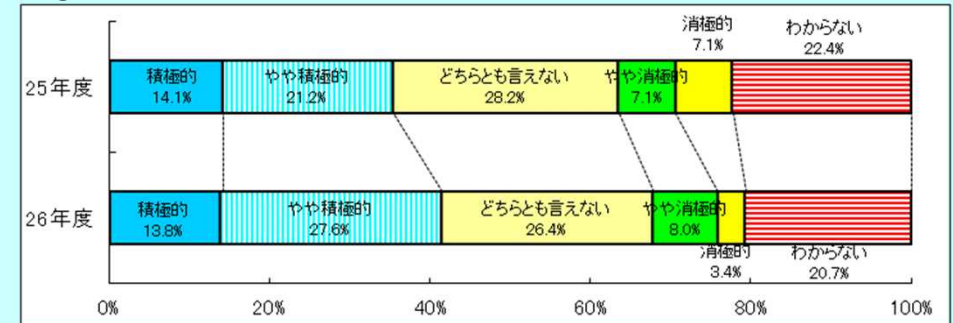


(iii) 顧客企業のライフステージや持続可能性等に応じた経営目標の実現や経営課題の解決を図るための方策(いわゆるソリューション)の提案力

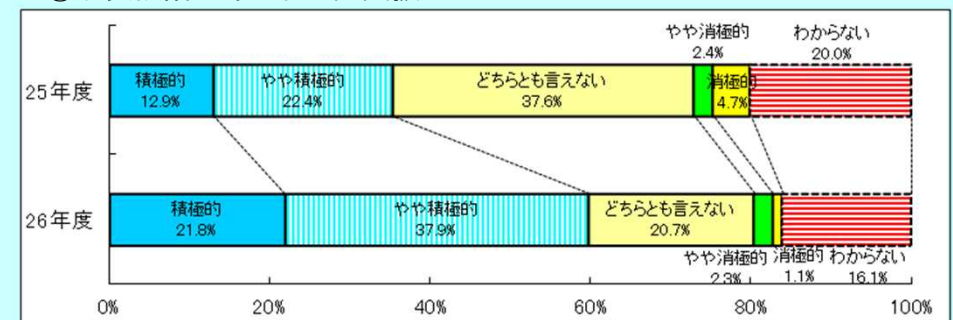


(iv) 顧客企業のライフステージの各類型における地域金融機関の取組み姿勢

① 創業・新事業開拓支援

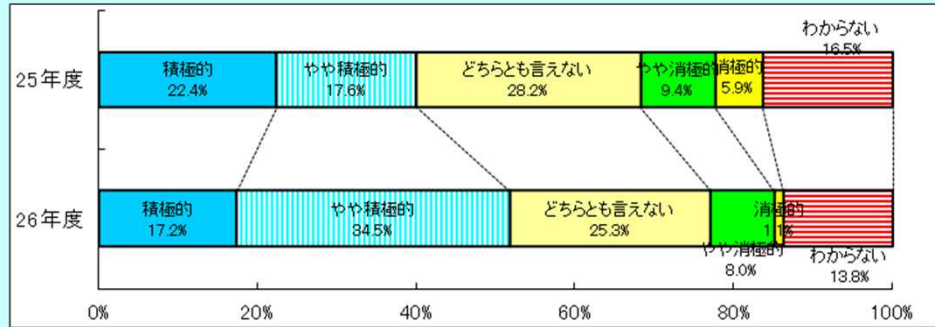


② 成長段階にある取引先支援

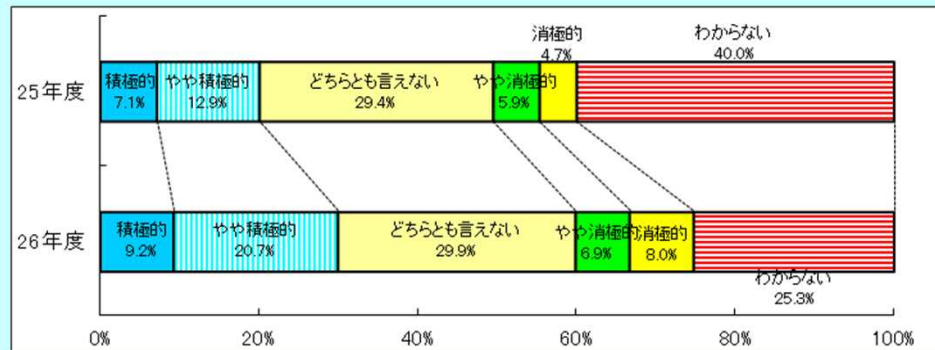


2. 地域金融機関の取組みに対する評価

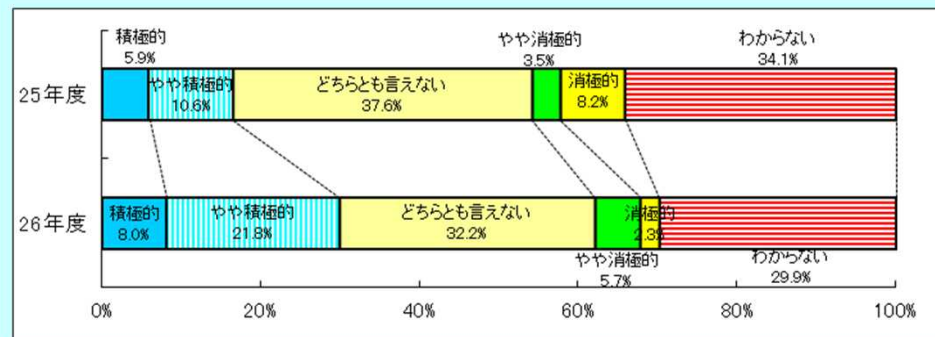
③ 経営改善支援



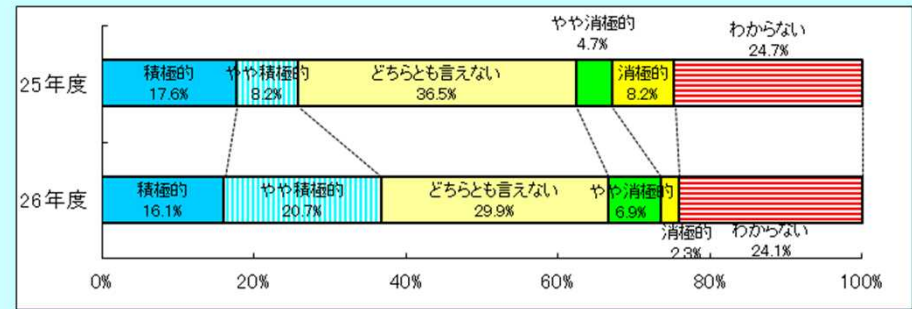
④ 事業再生・業種転換支援



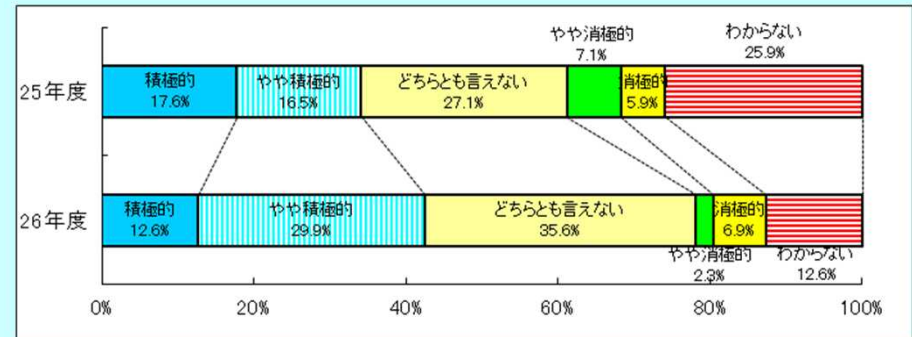
⑤ 事業承継支援



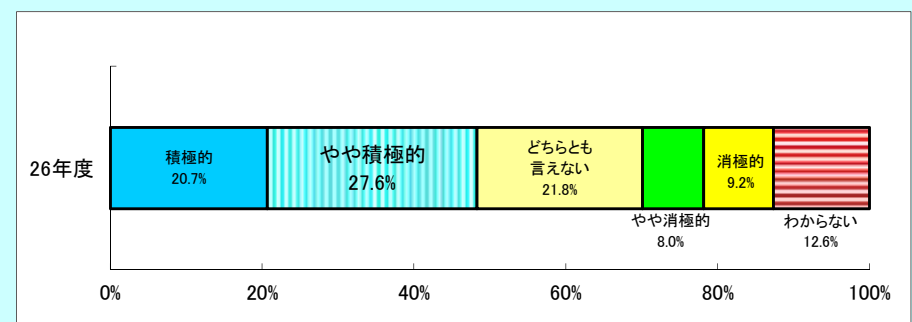
(v) ソリューション実行後のモニタリングの姿勢



(vi) 外部専門家・外部機関等との連携姿勢



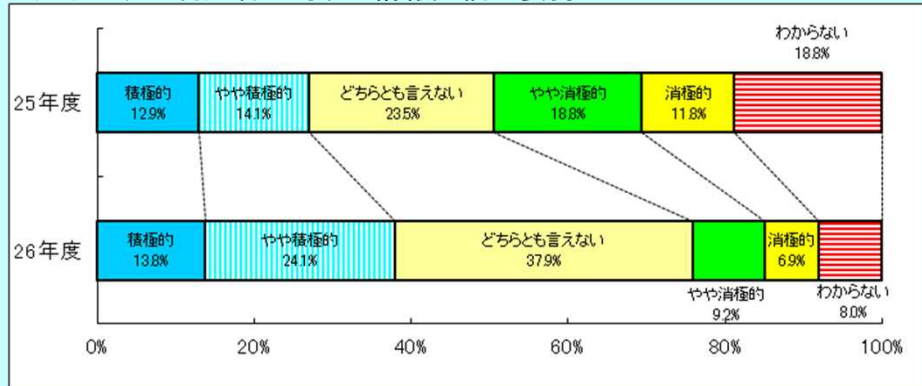
(3) 地方創生や地域経済活性化に向けた取組みへの参画



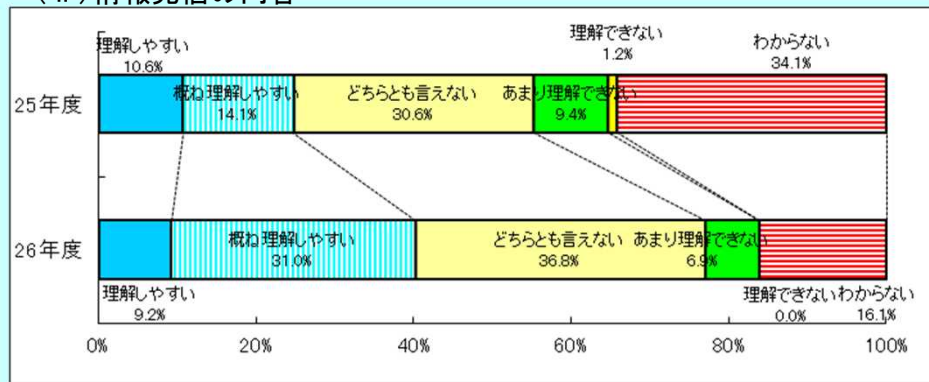
2. 地域金融機関の取組みに対する評価

(4) 地域や利用者に対する積極的な情報発信

(i) 地域や利用者に対する情報発信の姿勢



(ii) 情報発信の内容



九州財務局
マスコットキャラクター
「にゃんきゅう」

3. 当局の施策に対する評価

(1) 自由意見による評価

- シンポジウムは、先進的な取組みを学べるほか、パネルディスカッションでは各方面のパネリスト（事業者、企業支援の担い手、金融機関役員等）から生の声を聞くことができ、大変参考になる。
- 地域金融機関が対応を年々強化していると感じるのは、当局の金融機関への指導もあってのことではないかと思う。
- 利用者アンケートを実施し、現場の実態を把握することは意義あることだと思う。
- ▲ せっかくの取組みにも関わらず、一般への浸透が不十分と感じる。財務局の取組みのPRにもっと力を入れるべきではないか。

(2) 選択評価

